

福井県におけるイネミズゾウムシの発生

山本公志*・犬見 昭

Koshi YAMAMOTO* and Akira INUMI : New appearance of the rice water weevil, *Lissorhoptus oryzophilus* Kuschel, in the south part of Fukui prefecture in 1980

イネミズゾウムシはわが国では1976年に愛知県で初めて発見された。その後三重、岐阜、静岡の各県に広がり1979年には滋賀県にも発生した。福井県では1977年から嶺南地方を中心に本虫の発生を調査してきたが、1979年まではその発生は確認できなかった。

1980年は、滋賀県に接する地域でイネミズゾウムシ成虫を誘引するためのイネ苗箱を4月22～23日に水田付近の林の中や堤防雑草地に設置して成虫の生息調査を実施し、また田植された水田での発生を調査してきた。

著者の1人山本は1980年5月14日滋賀県境に近い敦賀市新道の水田でイネミズゾウムシの成虫を発見した。その水田は標高450m余り、水田面積約20aで9筆に区切られて階段状になっており南側に面していた。作付品種はヤマセニシキ、田植時期は5月3日であった。水田の周囲は杉林や雑草地および休耕田でススキが群生していた(第1図)。またその近くを国道8号線が通っている。当時この水田ではイネミズゾウムシ成虫が9頭捕獲され被害株が20株あった。成虫を発見した時の模様は、田植後間もないためか、畦際のイネ株でスジ状に食害されたイネの葉が水面に垂れていて食害部が水に浸ってやや黒くみえた。そのイネ株の水面下約1cmのところ成虫がイネ茎について上方を向き静止していた。この時期は



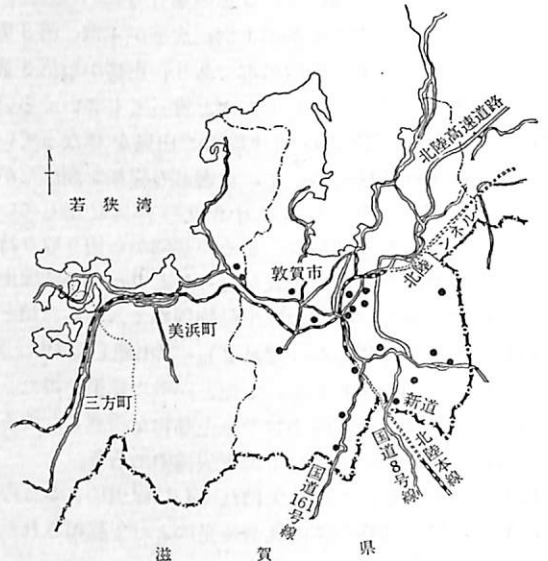
第1図 イネミズゾウムシが最初に発見された水田 (敦賀市新道)

福井県嶺南病害虫防除所 Reinan Plant Protection Office, Mihama, Fukui 919-11

* 福井県園芸センター Fukui Horticultural Center, Mihama, Mikata, Fukui 919-11

第1表 イネミズゾウムシの発生地域

調査月日	発 生 集 落
5月14日	敦賀市 新道
5月20日	敦賀市 奥麻生, 杉橋, 刀根, 駄口, 山中, 奥野, 疋田
5月22日	敦賀市 堂, 道ノロ, 吉河, 池ノ河内, 谷口, 中
5月23日	敦賀市 御名山, 美浜町 佐田
5月28日	敦賀市 筋生野
5月30日	美浜町 北田



第2図 イネミズゾウムシの発生分布
・発生地

越冬成虫が水田へ侵入する初期であり、畦際から3列くらいのイネ株に成虫や被害葉がみられた。

5月下旬にイネミズゾウムシの発生分布を調査した結果、成虫は敦賀市および美浜町でおおよそ1113haに発生していた(第1表・第2図)。成虫が確認された集落の多くは山間山沿い地帯であった。しかし5月末には一部平坦地(敦賀市筋生野)でも発生がみられた。この調査時期におけるイネミズゾウムシの発生状態は、水田10aで成虫1頭を発見するのが極めて難しい程の低い密度

で、食害株率0.1%以下であった。6月中旬になると山間部にある一部水田（敦賀市山中）で成虫密度がいくらか高まり、食害株率は約4%に達した。その水田では7月上旬にまだ越冬成虫がみられ、イネの根には幼虫や蛹が平均1～2頭寄生していた。

これら発生地では5月18～29日に共同防除を行いMP P 粉剤を散布した結果、かなりの防除効果をあげることができた。

福井県においてイネミズゾウムシの発生が確認されたのは本年が最初であり、発生面積が広い割に成虫の密度

が極めて低いことが特徴である。今後、本虫の分布拡大、密度の推移および被害程度がいかなる経過をたどるかは未知数であるが、山間部に水田が多く、田植が4月下旬～5月上旬にほとんど行われる当地方では本虫の害が極めて憂慮される。

おわりに、この調査は農林水産省名古屋植物防疫所敦賀出張所、二州農業改良普及所、敦賀市役所および敦賀市農業協同組合の方々のご協力によるものであり厚くお礼申し上げます。

(1980年8月8日受領)